

具体的な取り組み第2期戦略	具体的な取り組み第3期戦略 赤字: 変更した取組案を示す	実施を想定する 特に主体となるコ ミュニティ	関係するコミュニ ティ	変更理由
作戦1「まずは知る」作戦！ 地域のみんなが、地域の自然の豊かさや脆さをわかるようにします。				
目標1.生きものの様子から季節の変化を感じ取り、その話題で会話が弾んでいます。	目標1.生きものの様子から季節の変化を感じ取り、その話題で会話が弾んでいます。			
①豊岡に住む生きものや植物の市民調査を実施します。	①豊岡に住む生きものや植物の市民調査を実施します。	団体 行政	地域・市民 専門家 地域コミュニティ	
②豊岡らしい季節のこぼれを集めた「豊岡時候のあいさつ集」を作成します。	②豊岡らしい季節のこぼれを集めた「豊岡時候のあいさつ集」を作成します。		団体 行政	行政については、利用機会も見込まれないことや優先度から削除する。
③季節の特徴的な生きものや植物の観察会を開催します。	③季節の特徴的な生きものや植物の観察会を開催します。		各主体	
	④「生きもの共生の日」の周知に努めます。	行政	地域コミュニティ 団体	コウノトリ野生復帰の取組みの原点に回帰するとともに、生物多様性について考える機会とするため。
目標2.「生きもの博士」と呼ばれる人が増えています。	目標2.「生きもの博士」と呼ばれる人が増えています。			
①地域の生きもの博士情報を集め、「豊岡生きもの博士名鑑」を作成します。	①「豊岡生きもの博士」登録制度を開設します。	団体	専門家 行政	個人情報問題もあり、あくまでも講師派遣や個人情報の提供について了解を得られた生き物に詳しい人を登録し、派遣を希望する人や団体に派遣出来る体制を検討します。また、コウノトリKIDSのOBなども登録することにより、他自治体との交流会等において発表してもらう際の人选がスムーズに運ぶ。
②博士を増やすための「生きもの検定」を実施します。	②継続的な学習会等を通じて生きもの博士を育成します。	団体	専門家 行政	生き物に詳しい団体が、観察会等を通じて関心を持った市民に対し、継続的な学習会を開催し、知識を深める場を設け、生きもの博士の養成を図ります。
	③未来の「生きもの博士」を目指し、生き物に関心のある子どもたちに継続的な学習の場を提供します。	行政	団体 専門家	現在も実施しているコウノトリKIDSを明確に位置付け、未来の「生きもの博士」の育成を図る。
	④豊岡の環境保全に寄与する研究活動を支援します。	行政		豊岡市の取組みは先駆的であることで注目されている。引き続き一歩先の取組みを進めていくために、高校生等地域研究支援事業を継続するとともに、若手研究者への支援などを検討する。
目標3.地域の生きものの現状が科学的に整理され、その情報が共有されています。	目標3.地域の生きものの現状をみんなが知っています。			科学的に限定せず、まずは知ることを優先の戦略とする。
①地域の生きもの情報を詰め込んだ「豊岡版GIS」を構築します。	①既存のアプリ等を活用して、生き物情報の見える化を図ります。	行政 団体 専門家 地域コミュニティ	地域・市民 学校・PTA	GISに拘らず、手軽に取り組めるバイオームなどの活用により、生き物の生息状況の変化が見える取り組みに、誰もが参加しやすい仕組みの構築を検討することから始める。
②その情報を、公共工事や自然再生の取組みに活用します。	②その情報を、公共工事や自然再生の取組みに活用します。	行政	地域・市民 専門家 団体	
③「コウノトリ市民科学」によるコウノトリのモニタリング調査を実施し、情報を発信します。	③「コウノトリ市民科学」などによるコウノトリのモニタリング調査を実施し、情報を発信します。	団体 専門家	地域・市民	市民科学に限定せずに、モニタリング調査の実施や情報発信に引き続き取り組むため。
目標4.小学校区ごとに「生きもの地図」が備えられています。	目標4.小学校区ごとに「生きもの地図」が備えられています。			
①「ふるさと教育」などと連携して「生きもの地図」を作成するために支援します。	①地域や学校と連携して、地域の「生き物地図」の作成に取り組みます。		学校 地域・市民 団体 行政 地域コミュニティ	ふるさと教育の時間は限られていることや、校区内で生き物調査をする学校ばかりとは限らないことから、「ふるさと教育」と限定せずに、多くの主体が取組を進めてくれるように見直しを行う。 ②と統合する。
②「生きもの地図」の作成、活用に関するマニュアルをつくります。	②「生きもの地図」の作成、活用に関する支援を行います。	行政 団体 専門家	団体 専門家	生き物調査の方法や、生き物マップの作成方法について、本等も発刊されており、市で作る必要はないことから、作成を考える団体の支援に努め、作成や活用について一緒に考える。

具体的な取り組み第2期戦略	具体的な取り組み第3期戦略 赤字: 変更した取組案を示す	実施を想定する 特に主体となるコ ミュニティ	関係するコミュニ ティ	変更理由
作戦2「行動に移す」作戦！ 多様な生きものが住みやすい環境を増やします。				
目標1.行政も地域も、生きものに配慮した行動を心がけています。	目標1.行政も地域も、生きものに配慮した行動を心がけています。			
①公共事業における「生きもの配慮指針」をつくります。	(削除)	行政		兵庫県が既に「生物多様性配慮指針」を策定しており、②と一体化して削除。
②「生きもの配慮指針」を公共事業や自然再生の取組みに活用します。	①県が策定している「生物多様性配慮指針」を公共事業や自然再生の取組みに活用します。	行政	地域・市民 団体 事業者	市で独自に策定することについては削除したため、県が策定した「生物多様性配慮指針」を活用することを明記する。
③地域で行う「クリーン作戦・グリーン作戦」に、外来種対策をプラスすることを呼びかけます。		地域・市民 行政	行政	作戦2 目標6 ⑤へ
④生物多様性保全のためにも「豊岡市景観計画」を推進します。	②生物多様性保全のためにも「豊岡市景観計画」を推進します。	行政	地域・市民 事業者	
	③生物多様性「MY_行動宣言」の周知と、行動に移す市民を増やします。	行政	地域・市民	一人一人が自然環境への意識を高め、手軽にできる行動から参加する市民を増やしていくことが必要。
	④ネイチャーポジティブの実現へ、行動変容につながる仕組みを作ります。	行政		生物多様性に向けた行動変容につなげるには、何らかのインセンティブなどについて検討する必要があります。
目標2.豊岡で暮らすコウノトリたちが、安定して生活しています。	目標2.豊岡で暮らすコウノトリたちが、安定して生活しています。			
①市民との情報共有を強化しながら、コウノトリの野生復帰を広げていきます。	①コウノトリの生息環境の質を向上させます。	行政 地域市民 農林水産業	団体 専門家	現在の状況は、野生復帰の次の段階へ進んでいると感じられます。今後安定してコウノトリが生息していくためには、生息環境の質向上は欠かせないと考えます。
②見守りなどを通じて、野外のコウノトリと地域との関わりを生み出します。	②見守りなどを通じて、野外のコウノトリと地域との関わりを生み出します。	行政	団体 専門家	
③「豊岡自然再生アクションプラン」に基づき、地域と連携した自然再生に取り組みます。	③「豊岡自然再生アクションプラン」に基づき、地域と連携した自然再生に取り組みます。	地域・市民 団体 専門家 行政	地域コミュニティ 学校・PTA	
目標3.市内各地に「春の小川」がイメージできる水辺があります。	(削除)			
①「春の小川」の基準を定めます。	(削除)	行政	団体 専門家	「春の小川」について抱くイメージは、各人さまざまであり、市が定めたからと言って、地域においてコンセンサスを得る目標となりづらいことが考えられる。また、河川の改変は河川管理者との調整が難しいことが考えられる。
②「春の小川」づくりをサポートするしくみをつくります。	(削除)	行政	団体 専門家	
③モデル的に「春の小川」づくりに取り組む地域を募り、実践します。	(削除)	地域コミュニティ	地域・市民 行政	
目標4.市街地・住宅地でも多くの生きものと触れ合うことができます。	目標3.市街地・住宅地でも多くの生きものと触れ合うことができます。			
①市民は、プランターや庭で緑を生み出します。	①市民は、プランターや庭で緑を生み出します。	地域・市民		
②地域は、神社や公園を緑や生きものの拠点として意識します。	②地域は、神社や公園が緑や生きものの拠点として機能するよう維持します。	地域・市民		緑や生きものの拠点として機能させるため、管理のために農業を使用しないなど行動に移していただけるようにする。
③行政は、各ポイントを「回廊」として機能させます。	③行政は、公共施設や都市公園等を「水と緑の回廊」として機能させます。	行政		市民や地域で作られたポイントを、市が管理する公共施設や都市公園等が回廊としてつなぐため、管理のために農業を使用しないなど、生き物への配慮に努めることとする。

具体的な取り組み第2期戦略	具体的な取り組み第3期戦略 赤字: 変更した取組案を示す	実施を想定する 特に主体となるコ ミュニティ	関係するコミュニ ティ	変更理由
目標5.ラムサール条約登録エリアが広がりました。	目標4.生物多様性の保全が図られている区域が増えています。			ラムサール条約登録エリアは広がりましたが、引き続き、生物多様性の保全が図られている区域を増やしていく必要があります。
①登録エリアにおける保全やワイズユース(賢明な利用)の取組みを充実します。	①ラムサール条約登録エリアにおける保全やワイズユース(賢明な利用)の取組みを充実します。	行政 農林水産業	団体 専門家	目標から、ラムサール条約が消えたことから、作戦で明記する。
②登録エリアをモデルに取組みや意識を周辺に広げ、エリアを拡大します。	②ラムサール条約登録エリアやOECMの登録・拡大に努めます。	行政	団体 専門家	ラムサール条約に限定せずに、自然共生サイト(OECM含む)も視野に、認定・拡大に努めることとする。
③学校教育でラムサール登録に触れ、誇りを醸成します。	③地域や学校教育でラムサール登録やOECMへの理解を深め、誇りを醸成します。	学校・PTA 地域コミュニティ 行政	地域・市民 農林水産業	地域に暮らす大人自身も、理解を深める必要があります。
	④OECMに取り組む企業を増やします。	行政 事業者 団体 専門家	地域・市民 農林水産業	OECMは、民有地などでの認定も可能なことから、社有地や寺社敷地などにおいても、取組を進める企業を増やす必要があります。
目標6.在来の生態系を乱す外来種の侵入・増加を防いでいます。	目標5.在来の生態系を乱す外来種の侵入・増加を防いでいます。			
	①生態系に影響を及ぼす、外来生物の駆除方針を定めます。	団体 専門家 行政		農業被害を与えていない外来生物への対応について、所管課や、対応方針が決まっていないことから、先ずはその方針作りについて検討します。
①外来生物に対する知識を深め、効果のある対策を検討します。	②外来生物に対する知識を深め、効果のある対策を検討します。	団体 専門家 行政		
②豊岡版ブラックリストを用いた学習会を開催します。	③豊岡版ブラックリストを用いた学習会を開催します。	行政	団体	
③外来生物への対策を強化するエリアを決め、積極的な駆除に努めます。	④外来生物への対策を強化するエリアを決め、積極的な駆除に努めます。	地域市民 行政		①に関連し、対象外来種や強化のエリアの設定など、方針の決定には行政も地域と共に取組む必要があります。
③地域で行う「クリーン作戦・グリーン作戦」に、外来種対策をプラスすることを呼びかけます。 ※作戦2-目標1 ③より移動	⑤地域で行う「クリーン作戦・グリーン作戦」に、外来種対策をプラスすることを呼びかけます。	地域・市民 行政	行政	行政も呼びかけを行います。
目標7.希少になった生きものや生態系に、個別の保護対策が進められています。	目標6.希少になった生きものや生態系に、個別の保護対策が進められています。			
①希少動植物に対する知識を深め、効果のある対策を検討します。	①希少動植物に対する知識を深め、効果のある対策を検討します。	団体 専門家 行政		
②豊岡版レッドリストを用いた学習会を開催します。	②豊岡版レッドリストを用いた学習会を開催します。	行政	団体	
	③希少動植物の保全に関わる人材の育成・確保に努めます。	団体 専門家 行政		専門的な知識を有する人材がいないと、現状の把握すら行えないことから、人材育成等、確保へ向けた検討が必要である。
	④希少動植物の保全に努めます。	団体 専門家 行政	地域・市民	ノアの方舟を継続するとともに、民間団体等においても、小さな自然再生などの活用により、保全活動に取り組むことを目指します。
③生態系に悪影響を及ぼす有害鳥獣への対策を強化します。		行政		作戦3 目標1 ①へ

具体的な取り組み第2期戦略		具体的な取り組み第3期戦略 赤字：変更した取組案を示す	実施を想定する 特に主体となるコ ミュニティ	関係するコミュニ ティ	変更理由
作戦3「基盤を守る」作戦！ 地域を支える第一次産業を育てます。					
		目標1.安心して第一次産業に従事できる基盤を作ります。			
(③生態系に悪影響を及ぼす有害鳥獣への対策を強化します。) ※作戦2-目標7 ③より移動 (②田んぼや水路の生態系機能を高めます。) ※作戦3-目標1 ②より移動		①農林水産業に悪影響を及ぼす有害鳥獣等(ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル、カワウ、ブルーギル、ムラサキウニなど)への対策を強化します。	行政		農林業に悪影響を及ぼす有害鳥獣等だけでなく、水産業への有害外来種等対策も含めて、基盤づくりとした。
		②田んぼや水路の生態系機能を高めます。(第2期目標3②より)	農林水産業 行政	団体	
		③水辺での自然環境に配慮した取組を推進します。	行政 農林水産業 事業者	地域・市民 団体	川なども、多くの生き物が棲みやすい環境となるよう、水辺での環境配慮の取組みについて取組む必要がある。
		④森里川海のつながりを知り、生態系への意識を深めます。	地域・市民 農林水産業	行政	生物多様性を正しく理解するためには、「森里川海のつながり」を理解する必要がある。
目標1.農薬や化学肥料に頼らない農業が増え、田んぼの生態系が豊かになっています。		目標2.田んぼの生態系が豊かになっています。			条件を撤廃しました。
①「豊岡市農業振興戦略」に基づき、豊岡型環境創造型農業を拡大します。 ②田んぼや水路の生態系機能を高めます。 ③田んぼづくりに関する意識改革に取り組みます。		①「豊岡市農業ビジョン」に基づき、豊岡型環境創造型農業を拡大します。	農林水産業 行政		戦略のビジョンへの改定に伴う見直し。
			農林水産業 行政		作戦3 目標1 ②へ
		②田んぼづくりに関する意識改革に取り組みます。	行政	団体 農林水産業	
目標2.市民や消費者と交流する生産者の顔が輝いています。		目標3.市民や消費者と交流する生産者の顔が輝いています。			
①生産者と市民との交流機会を増やします。 ②生産者と全国の消費者との交流機会を増やします。		①生産者と市民との交流機会を増やします。	事業者	地域・市民 団体 農林水産業 行政	消費者である住民なども積極的に交流の機会を持つことにより、食への理解が深まるとともに、生産者のやりがいづくりにもつながることが期待できる。
		②生産者と全国の消費者との交流機会を増やします。	農林水産業 事業者	行政	
目標3.地元で採れたものを優先して食べる人が増えました。		目標4.地元で採れたものを優先して食べる人が増えました。			
①地元産品を扱う店舗や料理店の数を増やします。 ②学校給食における地元産品利用割合を、国の基準3割に近づけます。 ③保育園・こども園の給食などにおける地元産品利用割合の増加に取り組めます。		①地元産品を扱う店舗や料理店の数を増やします。	農林水産業 事業者		
		②学校給食における地元産品利用割合の、更なる増加を目指します。	農林水産業 行政		現在、野菜については3割をほぼクリアしており、更なる増加に努めることとします。
			農林水産業 行政		保育園やこども園においては、3歳以上児は主食は持参することとなっている。2歳以下児については、園で提供を行っている。食べる量も限られていますが、利用率の向上への検討が必要です。
		目標5.持続可能な森づくりが実施されています。			林業に関する目標がないため、取り上げました。
		①自伐型林業に携わる人が増えています。	農林水産業 行政		近年、持続可能な森づくりの方法として注目されている自伐型林業について、取組を検討します。
		目標6.漁港に元気な声が響き渡っています。			漁業に関する目標がないため、取り上げました。
		①海の生態系保全回復に向けた取り組みについて推進します。	農林水産業 行政		磯焼けなどは漁業に大きな影響を与えます。生物多様性の観点からも藻場の回復など、生態系の回復に取り組めます。
		②プラスチックごみが生態系に与える影響に関する周知とその対策を講じます。	地域・市民 行政		海ごみ問題は生態系へも影響を及ぼすことから、対策について検討をすることが必要です。

具体的な取り組み第2期戦略		具体的な取り組み第3期戦略 赤字:変更した取組案を示す	実施を想定する 特に主体となるコミュニティ	関係するコミュニティ	変更理由
目標4.若い世代が第一次産業の大切さを理解しています。		目標7.第一次産業を担う若い世代を育成します。			第1次産業に従事する若者を増やすことにウェイトを置きます。
①学校園で環境に配慮した農業体験活動を実施します。	①学校園では、環境に配慮した農業体験活動などを通して、第一次産業の魅力を伝えます。	学校・PTA 農林水産業	農林水産業 行政		第一次産業の魅力を伝えられるよう、農家の方も積極的に学校行事に協力します。
②就職希望学生に向けて、第一次産業の魅力をPRします。	②若手就職希望者に向けて、第一次産業の魅力をPRします。		農林水産業 行政		学生に限定せずに、就労を希望する若者に対し周知を図る。
③「豊岡農業スクール」などによる就農支援を行います。	③「豊岡農業スクール」などによる就農支援を行います。	行政			
	④行政がUターン者と農地や森林所有者とのマッチングの支援の仕組みについて検討します。	農林水産業 行政			山に関心のない所有者がいる一方、山に関心のある市民等もいることから、つなげられる仕組みについて研究を進める必要があります。
作戦4「つながる・つなげる」作戦！ 人と人、地域と人とのつながりを深めます。					
目標1.自然の中で遊ぶ子どもの姿をよく見るようになりました。		目標1.自然の中で遊ぶ子どもの姿をよく見るようになりました。			
①次世代を担う子どもたちを育てるため、自然とふれあう活動を充実させます。	①次世代を担う子どもたちを育てるため、自然とふれあう活動を充実させます。		団体 行政		
②地域の方が講師となって、地域で行う「自然遊び教室」を実施します。	②地域の方が講師となって、地域で行う「自然遊び教室」を実施します。	地域コミュニティ 地域・市民			地域コミュニティ組織においても、地域の課題として生物多様性が認識され、事業が取り組まれるよう働きかけを行います。
目標2.親子で生きものや自然に触れ合う機会が増えています。		目標2.親子で生きものや自然に触れ合う機会が増えています。			
①PTAの学年行事に、生きもの調査や自然観察を採り入れます。	①PTAの学年行事や子ども会行事などに、生きもの調査や自然観察を取り入れます。	地域・市民 学校・PTA			PTAの学年行事に限らず、様々な主体が、生き物調査や自然観察を行うことを期待します。
②生きものや自然に触れる親子イベントを数多く企画します。	②生きものや自然に触れる親子イベントを数多く企画します。		地域・市民 団体 行政		
目標3.地域の文化や伝統的な知恵・技が受け継がれています。		目標3.地域の文化や伝統的な知恵・技が受け継がれています。			
①祭事を通じて地域の文化や自然へのまなごしを醸成します。	①祭事を通じて地域の文化や自然へのまなごしを醸成します。		地域・市民 行政		
目標4.交流施設では、楽しい声が弾んでいます。		目標4.交流施設では、楽しい声が弾んでいます。			
①生物多様性について学び、体験できるプログラムを充実します。	①生物多様性について学び、体験できるプログラムを充実させます。	団体 行政			
②地域コミュニティと連携し、生物多様性に関係のある取組みを応援します。	②生物多様性に関係のある事業に取組めるよう、支援します。	地域コミュニティ 団体 行政			地域コミュニティ組織においても、地域の課題として生物多様性が認識され、事業が取り組まれるよう応援を行う。

具体的な取り組み第2期戦略		具体的な取り組み第3期戦略 赤字：変更した取組案を示す	実施を想定する 特に主体となるコ ミュニティ	関係するコミュニ ティ	変更理由
目標5.日本中、世界中から訪れる人がいて、地元の人と交流しています。		目標5.コウノトリ野生復帰の取組を知った国内外の人々との交流が深まっています。			世界でも例の少ない、コウノトリの野生復帰の取組をきっかけに訪れる人との交流に焦点をあてる。
	①コウノトリ野生復帰の取組に参加する人を増やします。	①コウノトリ野生復帰の取組に参加する人を増やします。	行政	地域・市民 団体 農林水産業 事業者	
	②コウノトリ野生復帰の取組みや豊岡の自然に共感して訪れる人と地域住民との交流機会を増やします。	②コウノトリ野生復帰の取組みや豊岡の自然に共感して訪れる人と地域住民との交流機会を増やします。	行政	地域・市民 団体 農林水産業 事業者	
		③野生復帰の取組みに賛同して協力してくれる企業・団体などの拡大に努めます。	行政	事業者 団体 地域・市民	限られた予算や人の中で生物多様性の質を向上させるためには、多様な主体の参加が必須であると考えられる。取組をさらに周知して市外の企業が参画しやすい環境を構築します。
		④コウノトリが飛来した地域の人々との交流により、生き物を大切にする取組を広げます。	地域・市民 団体	行政	コウノトリの飛来先の住民が、コウノトリの定着に向けて環境保全活動を推進していくことを、日本コウノトリの会などとの交流により理解を深めている。
		⑤コウノトリ野生復帰の取組みなど、国内外で豊岡の魅力を語れる子どもたちを増やします。	行政 学校・PTA		ふるさと教育や高校生等地域研究支援事業をはじめ、コウノトリKIDSの活動などを通じ、豊岡に自信を持ち、自分の言葉で話すことができる子どもたちの育成に努めます。
		目標6.人も自然も森里川海のつながりを持っています。			
		①海や山の保全活動を通じ、林業従事者と漁業従事者などの交流の機会を創出します。	行政 農林水産業		お互いが保全活動などを通じて交流することで、森から海までがつながっていることを再認識出来るような取組の実施について検討します。
	作戦5「効果を高める」作戦！ 作戦を実行しやすいしくみをつくります。				
目標1.行動のすべては、「見試し」の手法で実践されています。		目標1.行動のすべては、「見試し」の手法で実践されています。			
	①PDCAサイクルの手法を取り入れます。	①PDCAサイクルの手法を取り入れます。	行政		
	②アダプティブマネジメント適応管理の手法を取り入れます。	(削除)	行政		アダプティブマネジメントとPDCAサイクルは同義的である考えられることから、削除します。
目標2.この戦略の実践を支える拠点が機能しています。		目標2.この戦略の実践を支える拠点が機能しています。			
	①市役所を中心に拠点を定め、取組みを推進します。	①市役所を中心に拠点を定め取組みを推進するため、定期的な情報交換を行う機会の設置します。	行政	地域・市民 団体 専門家	着実に取組を推進するため、計画推進委員会(仮称)や情報交換会など、関係者が意見交換できる場を設けることを検討します。
		②生物多様性に寄与する、地域での保全活動に外部人材をつなぐ仕組みを検討します。	行政 団体		過疎高齢化が進む中で、自然環境の保全に圧倒的なマンパワーが不足しています。人材を必要とする地域と、自然に関心のある都会の人、学生、退職者、障害者等をつなぐ組織の設置について検討します。